

『一年の計は元旦にあり』 目標に向かって学びを重ねる

校長 高橋 馨

新年を迎え、新たなお気持ちでお過ごしのことと存じます。生徒の皆さんも年末年始の普段とは違う過ごし方やお正月の伝統的な習慣、そうした日本の伝統文化に触れることで、新しい年を迎えたことを実感していたのではないかと思います。どんなお正月を過ごされたのか、生徒との会話や、教室等で紹介される掲示物を見るのが楽しみです。

今年（令和7年、2025年）は蛇を象徴する「巳年（みどし）」です。蛇の脱皮による再生や変化から、巳年は成長と変化、物事が大きく進展する年ともいわれています。そうしますと『一年の計は元旦にあり』ということわざ通り、目標とそれに向けた計画がより大切になってくる一年、とも言えます。そのような巳年、現在の新鮮な気持ちをきっかけにして、新しい年の「新たな目標」を考えてみてはいかがでしょうか。目標は、日々の生活をより充実したものにしてくれます。新年・新学期の始めに、少し先の未来を想像して新たな目標を立てることで、巳年を充実した一年にしていきたいと思います。令和7年・2025年も、目標に向かって一日一日を大切に積み重ねていきたいと思います。

さて、年末12月に『東京都特別支援学校第33回総合文化祭』の「5部門作品展」と「舞台芸術・演劇祭」が、それぞれ開催されました。本校からは造形美術作品の出展と、表現活動部による発表がありました。5部門作品展は毎年使用している池袋の東京芸術劇場が工事のため、上野の東京都美術館での開催となりました。高く広い、美術館ならではの空間に展示された都内特別支援学校の児童・生徒の作品を、例年より多くの方が参観し楽しまれていました。作品と一緒に記念写真を撮る光景もたくさん見られました。作品の前で誇らしげにポーズをとる子供たちの表情がとても素敵でした。その翌週、特別支援学校5校が参加する「舞台芸術・演劇祭」も開催され、本校は22日（日）に発表しました。私は出演校の関係者として、発表前の舞台上での打ち合わせやリハーサルから生徒たちの様子を参観することができたのですが、そのおかげで本番の発表までの短時間の間に変化・成長していく生徒たちの逞しい姿を見ることができ、嬉しい驚きと沢山の感動を味わうことができました。こうした機会、体験活動の大切さについても、改めて実感させられました。

令和7年・2025年が始まりました。新しい年も、生徒が成長を実感・共有できる活動を展開できるよう、全教職員で力を合わせ努めてまいります。今年もよろしくお願いいたします。

ほっこり幸せになる舞台♪

12月22日（日）、表現活動部が、練馬文化センターにて行われた、東京都特別支援学校第33回総合文化祭「舞台芸術・演劇祭」に出演してきました。

演目は「ダンスパフォーマンス『お菓子』」と題し、個性豊かなお菓子たちがたくさん登場し、わいわい大騒ぎする楽しい内容です。出演する生徒一人一人の個性にぴったりの配役で（自分たちで好きなお菓子や、演じてみたいキャラクターを選びました）、それぞれの演技がキラリと光っていました。

保護者の方をはじめ、本校の生徒たちや先生方、卒業生など、たくさんの方に来場していただき、「ほっこり幸せな気持ちになった。」「生徒たちが生き生きと演じる姿に元気をもらった。」等の言葉をたくさんいただきました。会場を包むあたたかな空気は、本校の表現活動部の生徒たちがお互いを思いやりながら、それぞれの個性を認め大切にしている姿勢が作り出しているのだと思っています。

これからも、表現することをめいっぱい楽しめる部活でありたいです。応援、ありがとうございました。

（小西 くるみ）

